

## I 研究主題

# 自己の生き方を見つめ、主体的に実践していこうとする児童の育成 ～心に響く道德の時間の指導の工夫を中心にして～

## II 主題設定の理由

今日の社会は、情報化、少子高齢化、価値観の多様化等が進み、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化し続けている。この変化の影響を受け、社会規範自体が揺らぐ社会の大きな変化や家庭・地域の教育力の低下、異年齢の子どもどうしの交流の場の減少及び社会体験・自然体験の不足等が問題となってきた。その結果、生命尊重の精神や自尊感情を高めることが難しく、基本的な生活習慣の定着、規範意識、人間関係を築く力や集団活動を通じた社会性の育成等、子どもたちの課題も浮き彫りになってきている。これらの課題解決に向けて、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせていくことが必要であり、その理念は新学習指導要領にも示してある。学校教育では、体験活動を生かして、人間としてよりよく生きる自己実現のできる自分を感じさせ、主体的に判断して実践していこうとする意欲を育てる教育が必要であり、道德教育の充実が一層求められている。

このような背景を受け、平成20年3月に公示された新学習指導要領では、その改訂の柱の一つとして、「道德教育の充実」が掲げられている。総則には、道德教育は、道德の時間を要として学校教育活動全体を通じて行うことが明確化されている。

本県においても、教育創造プラン「宮崎ならではの教育」において、心の教育の充実を図るために、人間としての在り方や生き方の自覚を深めるとともに、美しいものや善い行いなどとの出会いにおいて、素直に感動する心を育むことが重要であるととらえている。そのための施策として、道德教育の充実を推進し、道德の時間の指導の充実や豊かな体験活動の充実等を展開している。また、「第2期 明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト」では、戦略4に「命を大切にする教育の推進」が位置付けてあり、道德教育の充実を図る施策を推進している。自己を見つめ、自己の生き方を見直し、よりよく生きていこうとする子どもを育成する道德教育は、これからの教育に必要不可欠なものであると考える。

研究実践校である都城市立志和池小学校のある志和池地区は、平成20年に学校支援地域本部事業に指定を受け、学力向上や豊かな体験活動の推進に取り組んできた。道德の時間においては、保護者や地域人材の活用、参観日の授業の公開等、道德の時間の指導の工夫・改善を行ってきた。児童の日記や作文、ボランティア活動等の日常活動を見ると、道德的心情の高まりについて、児童の変容が見られる。しかし、保護者のアンケートの結果をみると、思いやり・親切、誠実・明朗、生命尊重について、まだまだ実践力は高まっていないという意見が多かった。

そこで、本主題を、「自己の生き方を見つめ、主体的に実践していこうとする児童の育成」、副題を「心に響く道德の時間の指導の工夫を中心にして」と設定した。道德の時間に深めた道德的価値を通して自分自身のよさや課題に気づき、自己の生き方を見つめ、日常生活において、主体的に実践していこうとする道德的実践力のある児童の育成を目指したい。本研究では、児童が実践に移すための過程や実践意欲を高める評価について整理し、体験や体験活動を生かした心に響く道德の時間の工夫を中心に、道德的実践力を高めていく。ここでは、児童の意識調査や記述物、教師の観察等とともに、心理尺度を用いた客観的な評価も取り入れ、多面的・総合的に研究

の評価を行い、指導に生かしていきたい。このように、実践につながる道德教育について明らかにし、児童の心に響く道德の時間の工夫をしていけば、主体的に実践していこうとする児童の育成につながるのではないかと考え、本主題を設定した。

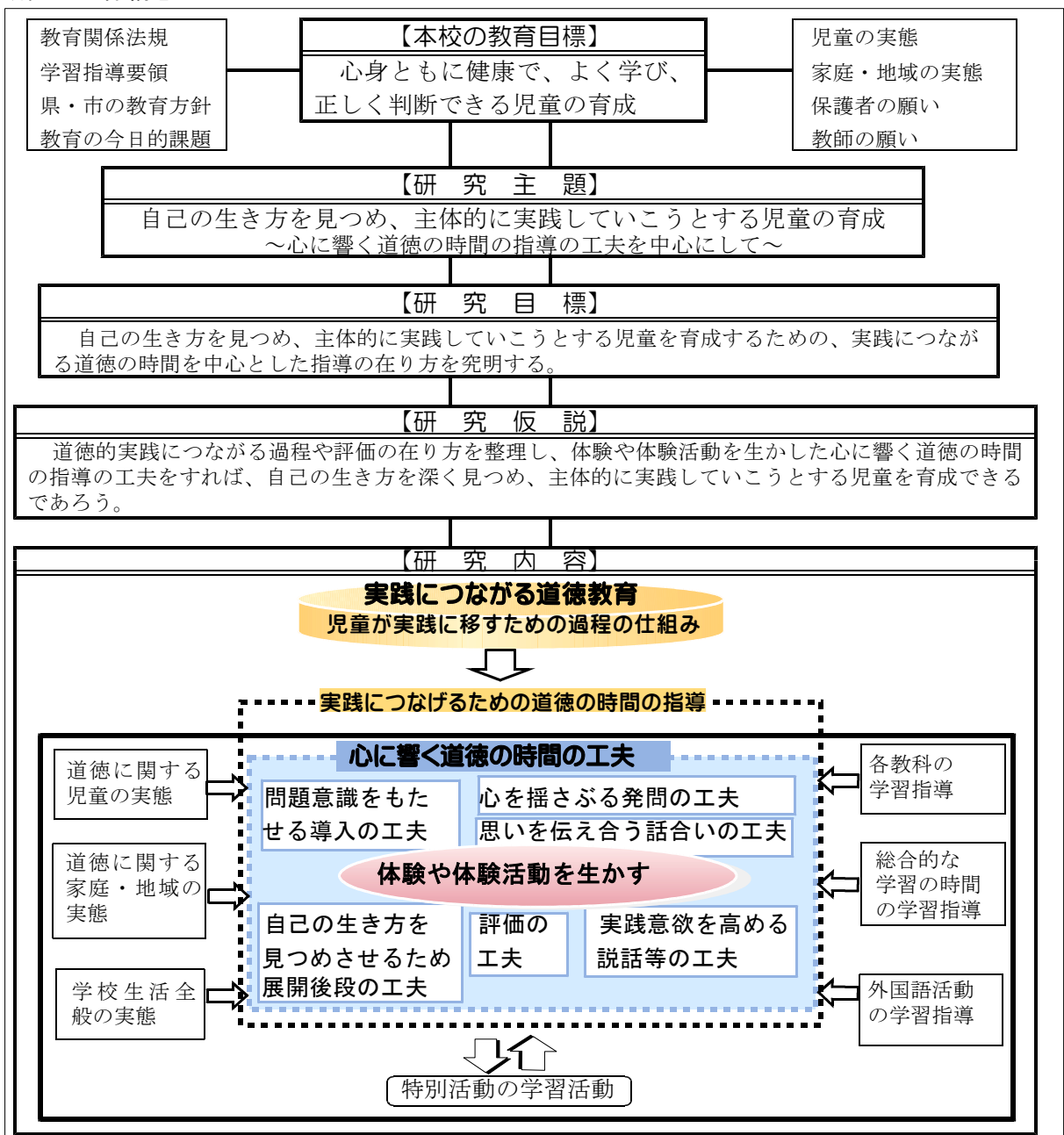
### III 研究目標

自己の生き方を見つめ、主体的に実践していこうとする児童を育成するための、実践につながる道德の時間を中心とした指導の在り方を究明する。

### IV 研究仮説

道德的实践につながる過程や評価の在り方を整理し、体験や体験活動を生かした心に響く道德の時間の指導の工夫をすれば、自己の生き方を深く見つめ、主体的に実践していこうとする児童を育成できるであろう。

### V 研究の全体構想



## VI 研究内容

### 1 研究の基本的な考え方

#### (1) 「自己の生き方を見つめる」とは

道徳教育は、児童が自己を見つめ、自分という人間の在り方や生き方を正面から見つめて、自律的な態度や行為がとれる人間形成をしていくことを目指している。

「自己の生き方を見つめる」とは、道徳教育の要となる道徳の時間において、資料を通して、人間理解や他者理解を深めながら、道徳的価値について理解する。そして、それを「自己を見つめる視点」として、自分との関わりでとらえて振り返ることにより、よりよくなるように肯定的に、これからの自己の在り方や目標を意識していることととらえる。

#### (2) 「主体的に実践していこうとする」とは

「主体的」とは、自分の意志や判断で行動することととらえる。「実践する」とは、道徳の時間で深められた自己の生き方を、日常の様々な場面で、適切な行為を選択し、進んで行為に移すような児童の姿ととらえる。つまり、「主体的に実践していこうとする」とは、道徳の時間に自己の生き方を見つめた児童が、学校・家庭・地域におけるあらゆる場面において、児童自らの意志や判断で適切な行為に移そうとしていることととらえる。

### 2 実践につながる道徳教育

道徳教育は、学校の教育活動全体を通して道徳性を育成することを目指している。最終的には、道徳の時間に高められた道徳的実践力が、道徳的実践として表れることが、実践につながる道徳教育となる。そこで、児童が実践に移すための過程の仕組みを、教育開発研究所出版の『道徳的体験と行為』（瀬戸真 編著）からまとめ、それをもとに、道徳的実践を支える道徳的実践力を高めていく道徳の時間の指導について整理した。

#### (1) 児童が実践に移すための過程の仕組み

##### ア 動機と道徳的実践

道徳教育は、児童が自律的な行為をとるところまで高めていくことをねらっている。自律的行為のために必要なのは、自己の中から発生する『内発的動機』である。しかし、児童の日常生活では、外側から引き起こされる『外発的動機』による行為の場面が多い。主体的に実践していくためには、道徳的価値を行為に表すための『内発的動機』に目を向けて指導をしていかなければならない。

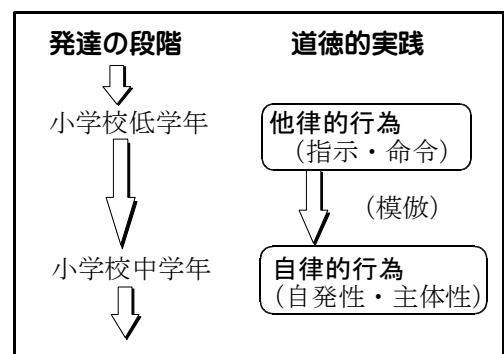
##### イ 発達の段階と道徳的実践

道徳的実践は、児童の発達の段階とも関係がある。(資料1) 他律的行為は、指示や命令によるもので、その行為の意味や効果を十分理解しないまま行っている場合が多い。一方、自律的行為は、自発性・主体性によるもので、その行為は自分の責任において行っているものである。また、中間的な行為としての模倣もある。

小学校低学年の時期までは、指導・教え込み・習慣づけのように他律的に教え込まなければ

ならないという考え方がある。行為を模倣させることにより、児童自身が望ましい行為を体験的に知り、行為の型を身に付けていくと考えられる。

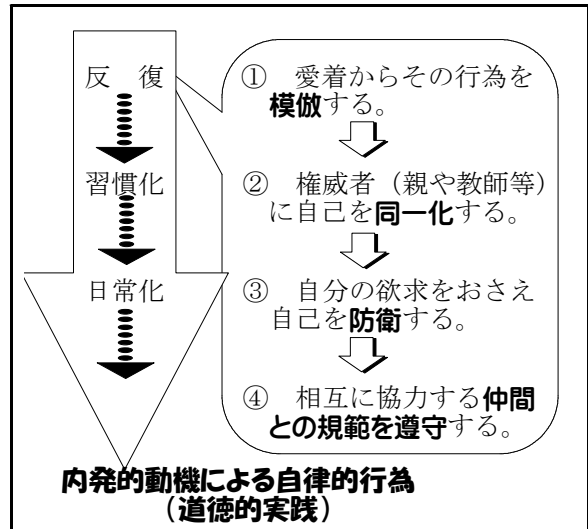
小学校中学年頃からは、自我が芽生え、自分で判断をすることを望むようになる。児童が内発的動機により、自分の行為を自己責任の下に判断する自律的行為をとるような指導が効果的となる。



【資料1 発達段階と道徳的行為】

## ウ 道徳的価値を内面化し道徳的実践に移す過程

人が道徳的価値を内面化し、道徳的実践として表れるまでには、資料2のような過程が考えられる。まず、慣れ親しんでいる親や他者への愛着からその行為を模倣し道徳的価値を内面化し、実践に移される。次に、親や教師等の児童にとって権威となる者に自己を同一化する。これは、自分の欲求を抑え、自己を防衛することになる。さらに、友だちや仲間という集団の中での関係が強くなると、目的を達成するために、相互に協力する仲間との規範を遵守するようになり、道徳的価値を内面化し自律的行為に移す。このような流れで、自律的行為が反復され、それが習慣化され、日常化されると、無意識のうちに実践に移すようになる。このことが、習慣化、日常化されると、自然に「内発的動機による自律的行為」が行われるようになる。このことが、道徳的実践に移す過程であると考えられる。小学校高学年からは、仲間との規範の遵守による実践も多くなるので、授業の中に話し合いを通じた考えを深める場面の意図的な設定が必要になってくる。



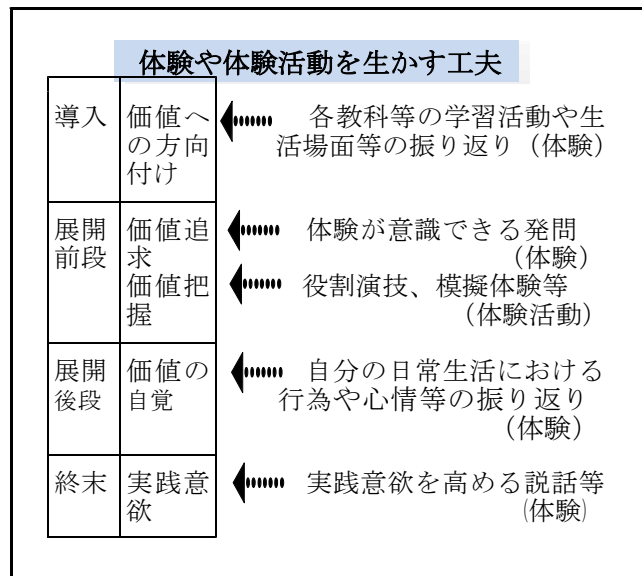
【資料2 道徳的実践に移す過程】

## (2) 体験や体験活動を生かした、児童の心に響く道徳の時間の指導や評価の工夫

児童が道徳的実践に移そうとするためには、道徳の時間の指導を充実させ、道徳的実践意欲や態度を育てることを意識して指導することが必要となる。そのために、道徳の時間は、児童の体験の中の行為に目を向けさせて考えさせることが効果的だと考える。その行為が自分の意志や判断で行おうとする内発的動機による自律的行為かどうかをじっくり考えさせることが、道徳的実践力を高めることにつながっていく。その際、授業で扱う道徳的価値について、自分自身で納得して価値把握をしているかが重要になる。

### ア 体験や体験活動を生かす工夫

人は、自然や社会、人々との関わりの中で、様々な体験を通して道徳的価値について考えたり感じたりしている。この体験を道徳の時間に意識させ、自分の心と向き合わせることにより、そこにある道徳的価値についてじっくり考えさせることができる。体験を基に考えさせたり、体験と重ね合わせて考えさせたりすることは、そのときの心情や判断基準を明らかにすることへとつながる。児童の道徳的価値に対する実態に応じて、資料3に示すように、各段階において体験や体験活動を生かす工夫をしていくことにした。体験の振り返りを繰り返すことにより、道徳的価値が高まっ



【資料3 体験や体験活動を生かす工夫】

ていき、道徳的行為につながっていくと考える。

## イ 児童の心に響く道徳の時間の指導の工夫

道徳の時間が、児童の心に響くものであれば、児童が主体的に実践していこうとすると考える。心に響く道徳の時間とは、児童の感性が揺り動かされたり児童の心に訴えるものがあつたりする授業ととらえる。心から納得できると、自分の意志や判断で行為に移そうとする意識へとつながる。心に響く道徳の時間の指導の工夫について資料4に示す。

また、実践につながるための道徳の時間は、児童自らが求め、主体的に学習していくことが望まれる。児童の意識の広がりについて、資料5に示す。導入で問題意識をしっかりとらせ、展開前段で価値について児童が納得するような授業を行えば、実践につながる展開後段が活きてくる。展開後段を重点的に扱うことにより、実践に移そうという意識が徐々に高まっていくと考える。そこで、展開後段に話し合いを位置付ける。まずは高められた価値を「自己を見つめる視点」とし、その行為やその時の気持ち及びそれに至った理由について考えさせ、小グループでの話し合いを通して、自己の生き方を見つめさせていく。

以上のことから、心に響く道徳の時間の指導の工夫について、具体的な手立てを述べていく。

### (7) 問題意識をもたせる導入や資料提示の工夫

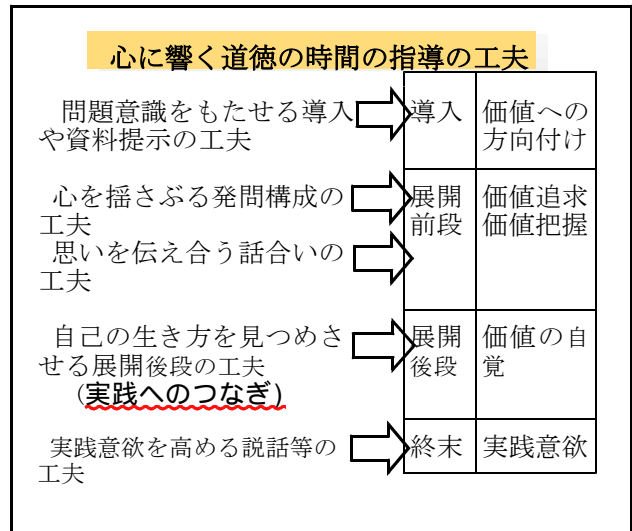
実践につながるためには、内発的な動機を促すものでなければならない。児童自ら考えたと思うような導入や資料提示をすることにより、雰囲気づくりやねらいとする価値への方向付けにつながる工夫をすることにした。

### (4) 心を揺さぶる発問構成の工夫

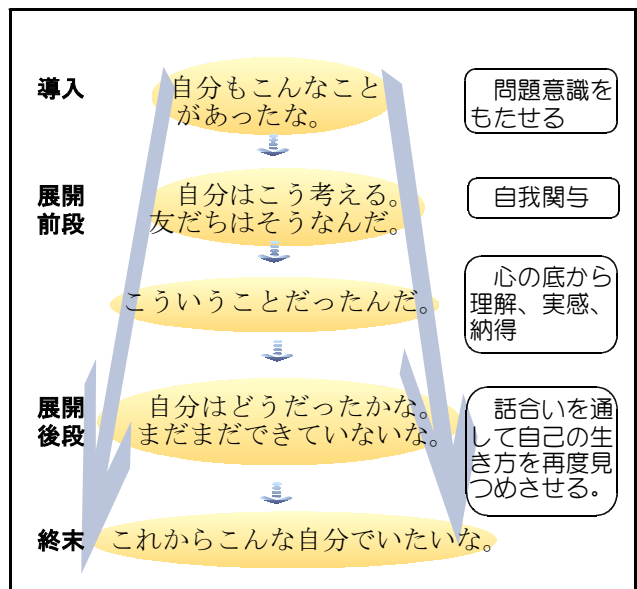
児童が今までもってきた価値観を、教師の発問によって、児童の心を揺さぶりながら、多様な感じ方や考え方を引き出すことが、価値の把握につながる。これは、中心発問だけで成り立つとは限らないので、その布石となる基本発問や掘り下げる補助発問との構成によって、心を揺さぶり、児童の判断の基になっている経験や価値観を引き出すことにした。

### (5) 思いを伝え合う話し合いの工夫

自分の思いや考えを他者と比較することにより、自分の考えとの類似点や相違点を明らかにし、登場人物に自我関与しながら自分の経験を振り返らせ、自己の生き方を見つめさせることにつながっていく。そこで、思いを伝え合う話し合いの工夫として、考えを整理するための書く活動、児童の主体的な話し合いを促すための相互指名の2つの手立てをとることにした。



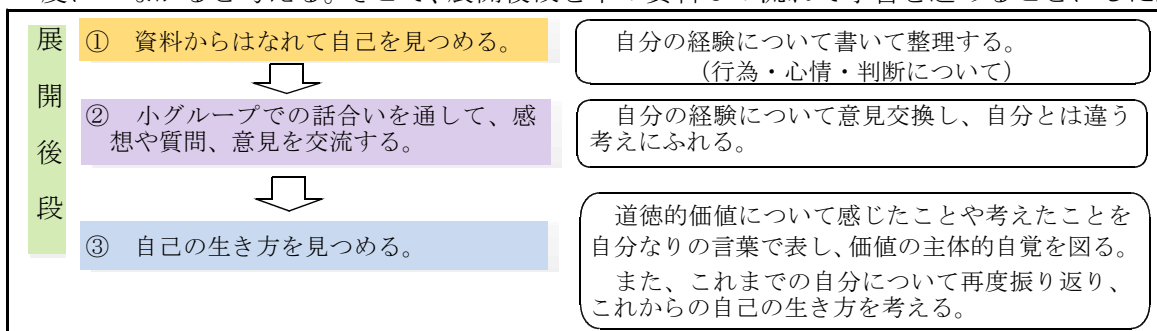
【資料4 心に響く道徳の時間の指導の工夫】



【資料5 道徳の時間の児童の意識の広がり】

## (イ) 自己の生き方を見つめさせるための展開後段の工夫

展開後段は、展開前段に資料を通して追及・把握した道徳的価値に照らして、今までの自分を見つめ、よりよい生き方を内面から自覚する段階である。この段階が実践意欲や態度につながると考える。そこで、展開後段を下の資料6の流れで学習を進めることにした。



【資料6 自己の生き方を見つめさせるための展開後段の流れ】

## (オ) 実践意欲を高める説話等の工夫

展開後段で自分と向き合い自己の生き方を見つめた児童の実践意欲をさらに高めていくために、児童の日常の生活体験を紹介したり、内部人材や地域人材を活用したりしていく。

## (カ) 評価の工夫

### a 評価の考え方

道徳教育における評価は、児童とのふれあいを通して共感的に理解し、多面的・総合的にとらえていくことが基本である。また、評価の場面や方法を工夫していき、主観的で曖昧な評価にならないように、客観性をもたせることも必要である。

### b 評価の方法

#### (a) 観察による方法

授業のねらいに即して、観察の視点を定めたチェックリストと自由記述欄を合わせた記録用紙を使って、児童のありのままの姿を観察し、記録していく。

#### (b) 質問紙による方法

道徳に関する実態・意識調査や授業前後の変容をみる調査により把握する。また、心理学的に尺度を用いて統計学的に分析する。

#### (c) ワークシートや日記等の記述による方法

児童に感じたことや考えたことを記述させ、共感的に把握する。自分を肯定的に、客観的にみる自己評価能力についても把握する。

## 3 授業実践による検証と考察

### (1) 授業の実際

#### ア 第1回検証授業の考察と改善点 (志和池小学校第6学年 平成22年7月9日)


導入では、5年生の国語科で学習したマザー・テレサの伝記や言葉を提示し、その後の児童の発言や相づちから、道徳的価値への意識を高めることができたと思う。展開前段では、主人公の心の揺れを考えさせる発問構成にしたので、児童の発言も多かった。しかし、体験活動として取り入れた役割演技が、日常生活での体験と照らし合わせることが難しかったので、十分に効果を上げることができなかった。児童の思考の流れに沿った発問構成の工夫が必要だった。展開後段では、話し合いを位置付けたが、話し合いがスムーズに進まないグループもあった。今後、話し合いマニュアルの活用や共通体験の提示等の工夫が必要であると感じた。

以上のような第1回検証授業の反省を受け、第2回検証授業では、展開前段までの価値の把握と展開後段の価値の自覚について授業を行った。

イ 第2回検証授業 (志和池小学校第6学年 平成22年10月20日実施)

(7) 授業の実際

1	<p>1 主題名 人の真心</p> <p>2 ねらいと資料</p> <p>○ 相手のことを考えて思いやりの心を持ち、相手の立場に立って接しようとする心情を育てる。 (資料名「雪のぼうし」 学研)</p> <p>3 授業仮説</p> <p>○ 本時の学習において、導入における学級活動の学習の想起、展開前段における役割演技、展開後段における生活場面の例の提示、終末における内部人材の活用等の「体験や体験活動を生かした工夫」を行えば、自分の生き方を見つめ、実践に移そうとする意欲を高めることにつながるであろう。</p> <p>○ 展開後段において、自己を見つめさせるときに、これまでの経験や理由、気持ちを書かせ、それをもとに小グループで意見交換する活動を位置付ければ、児童は自己の生き方について見つめながら、道徳的価値を内面的に自覚し、実践しようとする意欲を高めることにつながるであろう。</p>																		
4	<p>4 学習指導過程</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="295 645 335 689">階</th> <th data-bbox="335 645 566 689">学習内容及び活動</th> <th data-bbox="566 645 837 689">主な発問</th> <th data-bbox="837 645 1441 689">具体的な手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="295 689 335 896">気付く</td> <td data-bbox="335 689 566 896"> <p>1 学級活動の授業で作った実践のめあてを出し合う。</p> <p>2 めあてを立てる。</p> <p>3 <b>思いやりについて考えよう。</b></p> </td> <td data-bbox="566 689 837 896"> <p>○ 学級活動の授業で実践のめあてを決めました。どんな実践のめあてを決めましたか。</p> <p>○ 今日は、「思いやり」について考えていきましょう。</p> </td> <td data-bbox="837 689 1441 896"> <p>自分たちで作った「実践のめあて」(右)を想起させ、既習の学級活動の題材「相手の立場」の学習を振り返らせ、ねらいとする価値への方向付けをする。 <b>体験を生かす工夫</b> <b>問題意識をもたせる導入の工夫</b></p> <p>人に聞こえるような声をだす 相手の名前を言う 話す 「今やよい」と聞く</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="295 896 335 1556">高め</td> <td data-bbox="335 896 566 1556"> <p>3 資料を読み、淳子の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) 資料「雪のぼうし」を読み、心に残ったことを発表する。</p> <p>(2) 俊にプレゼントが一番小さかったと言われた淳子の気持ちを考える。</p> <p>(3) 雪色のぼうしが送られてきたときの淳子の気持ちを考える。</p> <p>(4) 雪色のぼうしこめられた俊の思いを考える。</p> </td> <td data-bbox="566 896 837 1556"> <p>○ どの場面が心に残りましたか。</p> <p>○ 「プレゼントはお前が一番小さい。」と言われたとき、淳子はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○ 雪色のぼうしが送られてきたとき、淳子はどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>◎ 雪色のぼうしには、俊のどんな思いがこめられているでしょう。</p> </td> <td data-bbox="837 896 1441 1556"> <p>資料を読む前に、資料のあらすじや雪国の様子、場面絵を、実物投影機を使って提示する。 <b>問題意識をもたせる資料提示の工夫</b></p> <p>俊のためにと心をこめて作った淳子の気持ちに共感できるように、小さな折り紙で作った鶴を準備し、作るのが大変なことに気付かせる。 <b>体験を生かす工夫</b></p> <p>雪かきが大変な仕事であることを、写真を提示してイメージさせ、淳子と俊それぞれの思いを考えさせる発問構成にする。 <b>心を揺さぶる発問構成の工夫</b></p> <p>中心発問は、書く活動を取り入れて、書きながら自分の考えを整理させていく。それにより、自信をもって発表できるようにする。 <b>思いを伝え合う話し合いの工夫</b></p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="295 1556 335 2058">見つけ</td> <td data-bbox="335 1556 566 2058"> <p>4 これまでの生活を振り返り、受け合った経験を話し合う。</p> <p>(1) これまでの生活を振り返り、あるさ思いやりのあるさ行ったりした経験を書く。</p> <p>(2) 小グループで話し合う。</p> <p>(3) 話し合いを通して考えたことを書く。</p> <p>(4) 全体で発表し合う。</p> </td> <td data-bbox="566 1556 837 2058"> <p>○ これまでの生活を振り返って、思いやりのあるさ行ったりしたことを書きましよう。その書きましよう。</p> <p>○ 書いたことを発表しましょう。発表を聞いて質問や感想を見を出し合ひましよう。</p> <p>○ 自分を見つめる話し合いを通して、感じたことを書きましよう。</p> <p>○ 書いたことを発表してください。</p> </td> <td data-bbox="837 1556 1441 2058"> <p>自分を見つめた経験を書いて整理させる。書けない児童には、事前のアンケートを想起させる。 <b>体験を生かす工夫</b></p> <p>小グループで感想や意見、質問の交流を行わせ自分とはちがう考えにもふれさせる。 <b>自己の生き方を見つめさせるための展開後段の工夫</b></p> <p>話し合いの後、自己を再度見つめさせ、「思いやり」についての考えをまとめ、価値の主體的自覚を図る。 <b>自己の生き方を見つめさせるための展開後段の工夫</b></p> </td> </tr> </tbody> </table>	階	学習内容及び活動	主な発問	具体的な手立て	気付く	<p>1 学級活動の授業で作った実践のめあてを出し合う。</p> <p>2 めあてを立てる。</p> <p>3 <b>思いやりについて考えよう。</b></p>	<p>○ 学級活動の授業で実践のめあてを決めました。どんな実践のめあてを決めましたか。</p> <p>○ 今日は、「思いやり」について考えていきましょう。</p>	<p>自分たちで作った「実践のめあて」(右)を想起させ、既習の学級活動の題材「相手の立場」の学習を振り返らせ、ねらいとする価値への方向付けをする。 <b>体験を生かす工夫</b> <b>問題意識をもたせる導入の工夫</b></p> <p>人に聞こえるような声をだす 相手の名前を言う 話す 「今やよい」と聞く</p>	高め	<p>3 資料を読み、淳子の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) 資料「雪のぼうし」を読み、心に残ったことを発表する。</p> <p>(2) 俊にプレゼントが一番小さかったと言われた淳子の気持ちを考える。</p> <p>(3) 雪色のぼうしが送られてきたときの淳子の気持ちを考える。</p> <p>(4) 雪色のぼうしこめられた俊の思いを考える。</p>	<p>○ どの場面が心に残りましたか。</p> <p>○ 「プレゼントはお前が一番小さい。」と言われたとき、淳子はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○ 雪色のぼうしが送られてきたとき、淳子はどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>◎ 雪色のぼうしには、俊のどんな思いがこめられているでしょう。</p>	<p>資料を読む前に、資料のあらすじや雪国の様子、場面絵を、実物投影機を使って提示する。 <b>問題意識をもたせる資料提示の工夫</b></p> <p>俊のためにと心をこめて作った淳子の気持ちに共感できるように、小さな折り紙で作った鶴を準備し、作るのが大変なことに気付かせる。 <b>体験を生かす工夫</b></p> <p>雪かきが大変な仕事であることを、写真を提示してイメージさせ、淳子と俊それぞれの思いを考えさせる発問構成にする。 <b>心を揺さぶる発問構成の工夫</b></p> <p>中心発問は、書く活動を取り入れて、書きながら自分の考えを整理させていく。それにより、自信をもって発表できるようにする。 <b>思いを伝え合う話し合いの工夫</b></p>	見つけ	<p>4 これまでの生活を振り返り、受け合った経験を話し合う。</p> <p>(1) これまでの生活を振り返り、あるさ思いやりのあるさ行ったりした経験を書く。</p> <p>(2) 小グループで話し合う。</p> <p>(3) 話し合いを通して考えたことを書く。</p> <p>(4) 全体で発表し合う。</p>	<p>○ これまでの生活を振り返って、思いやりのあるさ行ったりしたことを書きましよう。その書きましよう。</p> <p>○ 書いたことを発表しましょう。発表を聞いて質問や感想を見を出し合ひましよう。</p> <p>○ 自分を見つめる話し合いを通して、感じたことを書きましよう。</p> <p>○ 書いたことを発表してください。</p>	<p>自分を見つめた経験を書いて整理させる。書けない児童には、事前のアンケートを想起させる。 <b>体験を生かす工夫</b></p> <p>小グループで感想や意見、質問の交流を行わせ自分とはちがう考えにもふれさせる。 <b>自己の生き方を見つめさせるための展開後段の工夫</b></p> <p>話し合いの後、自己を再度見つめさせ、「思いやり」についての考えをまとめ、価値の主體的自覚を図る。 <b>自己の生き方を見つめさせるための展開後段の工夫</b></p>		
階	学習内容及び活動	主な発問	具体的な手立て																
気付く	<p>1 学級活動の授業で作った実践のめあてを出し合う。</p> <p>2 めあてを立てる。</p> <p>3 <b>思いやりについて考えよう。</b></p>	<p>○ 学級活動の授業で実践のめあてを決めました。どんな実践のめあてを決めましたか。</p> <p>○ 今日は、「思いやり」について考えていきましょう。</p>	<p>自分たちで作った「実践のめあて」(右)を想起させ、既習の学級活動の題材「相手の立場」の学習を振り返らせ、ねらいとする価値への方向付けをする。 <b>体験を生かす工夫</b> <b>問題意識をもたせる導入の工夫</b></p> <p>人に聞こえるような声をだす 相手の名前を言う 話す 「今やよい」と聞く</p>																
高め	<p>3 資料を読み、淳子の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) 資料「雪のぼうし」を読み、心に残ったことを発表する。</p> <p>(2) 俊にプレゼントが一番小さかったと言われた淳子の気持ちを考える。</p> <p>(3) 雪色のぼうしが送られてきたときの淳子の気持ちを考える。</p> <p>(4) 雪色のぼうしこめられた俊の思いを考える。</p>	<p>○ どの場面が心に残りましたか。</p> <p>○ 「プレゼントはお前が一番小さい。」と言われたとき、淳子はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○ 雪色のぼうしが送られてきたとき、淳子はどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>◎ 雪色のぼうしには、俊のどんな思いがこめられているでしょう。</p>	<p>資料を読む前に、資料のあらすじや雪国の様子、場面絵を、実物投影機を使って提示する。 <b>問題意識をもたせる資料提示の工夫</b></p> <p>俊のためにと心をこめて作った淳子の気持ちに共感できるように、小さな折り紙で作った鶴を準備し、作るのが大変なことに気付かせる。 <b>体験を生かす工夫</b></p> <p>雪かきが大変な仕事であることを、写真を提示してイメージさせ、淳子と俊それぞれの思いを考えさせる発問構成にする。 <b>心を揺さぶる発問構成の工夫</b></p> <p>中心発問は、書く活動を取り入れて、書きながら自分の考えを整理させていく。それにより、自信をもって発表できるようにする。 <b>思いを伝え合う話し合いの工夫</b></p>																
見つけ	<p>4 これまでの生活を振り返り、受け合った経験を話し合う。</p> <p>(1) これまでの生活を振り返り、あるさ思いやりのあるさ行ったりした経験を書く。</p> <p>(2) 小グループで話し合う。</p> <p>(3) 話し合いを通して考えたことを書く。</p> <p>(4) 全体で発表し合う。</p>	<p>○ これまでの生活を振り返って、思いやりのあるさ行ったりしたことを書きましよう。その書きましよう。</p> <p>○ 書いたことを発表しましょう。発表を聞いて質問や感想を見を出し合ひましよう。</p> <p>○ 自分を見つめる話し合いを通して、感じたことを書きましよう。</p> <p>○ 書いたことを発表してください。</p>	<p>自分を見つめた経験を書いて整理させる。書けない児童には、事前のアンケートを想起させる。 <b>体験を生かす工夫</b></p> <p>小グループで感想や意見、質問の交流を行わせ自分とはちがう考えにもふれさせる。 <b>自己の生き方を見つめさせるための展開後段の工夫</b></p> <p>話し合いの後、自己を再度見つめさせ、「思いやり」についての考えをまとめ、価値の主體的自覚を図る。 <b>自己の生き方を見つめさせるための展開後段の工夫</b></p>																

あたためる 3	5 校長先生の話 を聞く。	○ 校長先生の話 を聞いて下さい。	校長先生に、学校生活 の中で感じられた児童の 思いやりのある行為を話 してもらい、児童一人一人 の実践意欲を高めていく。 <b>実践意欲を高める説話等 の工夫</b>	
------------	------------------	----------------------	--	---

#### (4) 授業の分析と考察

体験や体験活動を生かす工夫については、導入において、学級活動の時間に考えた「実践のめあて」を想起させることにより、本時で考える「思いやり」への意識付けがスムーズにできた。また、実際に作った折り鶴を見せることにより、以前作った個々の体験を想起させることができ、主人公の気持ちに共感させるのに効果的だった。さらに、展開後段で自己を見つめるときに、経験を思い出せない児童に、事前のアンケートで書いたことや教師が知る児童の様子について知らせることにより、自分の経験を振り返りワークシートに詳しく記述していたので、この工夫は有効だった。

心を揺さぶる発問構成の工夫については、雪かきの仕事の写真を提示してイメージさせ、登場人物二人のそれぞれの思いを考えさせる発問構成にしたことにより、お詫びや感謝等のプレゼントにこめられた思いを深く考えていた。

自己の生き方を見つめさせるための展開後段の工夫については、自分の経験を振り返った後、小グループで話合せる中で友だちの考えにふれたことにより、ワークシートの記述が変わってきたり、行為のよさを実感した記述をしたりする児童が多かった。

実践意欲を高める説話等の工夫については、校長から、6年生児童の思いやりに関する話を聞くことにより、いろいろな人から認められているという意識が高まり、実践意欲につながっていくのではないかと考える。

#### (2) 児童の変容の分析と考察

##### ア 観察による評価

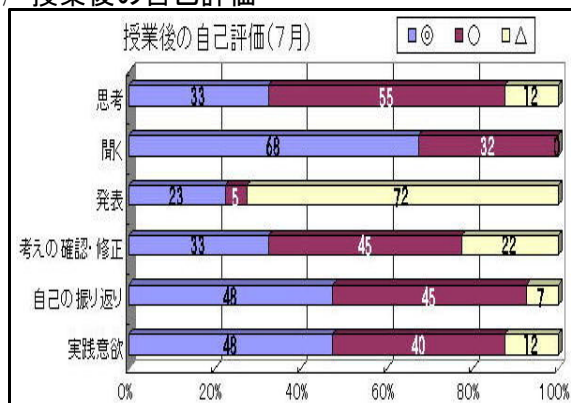
道徳に関する実態と照らし合わせながら、授業中の様子について、観察の視点を基に、3段階で評価した。記述欄には、教師の立場から、気付いたことを総合的に記述し、次の授業に生かすことができた。(資料7)

名前	道徳的心情	道徳的判断力	道徳的实践意欲と態度	記述欄
	相手のことを思いやり親切にすることを喜んでできなかったことを悔やんだりなどして、相手のことを思いやり親切にすることの大切さを感じ取っているか。	相手のことを思いやり親切にすることがよいことであると判断し、状況に応じて、相手を思いやり親切にすることはどうしようかを判断できているか。	相手を思いやり親切にする喜びを感じながら、状況に応じて判断し、適切な行動をとろうとする意志や身構えがあるか。	
	◎	○	○	発問に対してよく考え、発表もした。ワークシートには、行為につながる記述がなかったことから、心情はよいが、判断力や実践意欲はまだである。
	◎	◎	◎	資料の中の登場人物の気持ちを真剣に考えていた。発表1回。グループの話し合いでは、友だちに質問したり感想を述べたりして、話し合いをリードしていた。

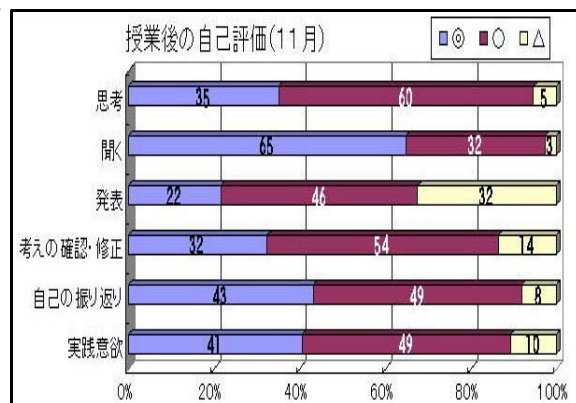
【資料7 観察による評価一覧表の一部】

##### イ 質問紙による評価

##### (7) 授業後の自己評価



【資料8 授業後の自己評価 (7月)】

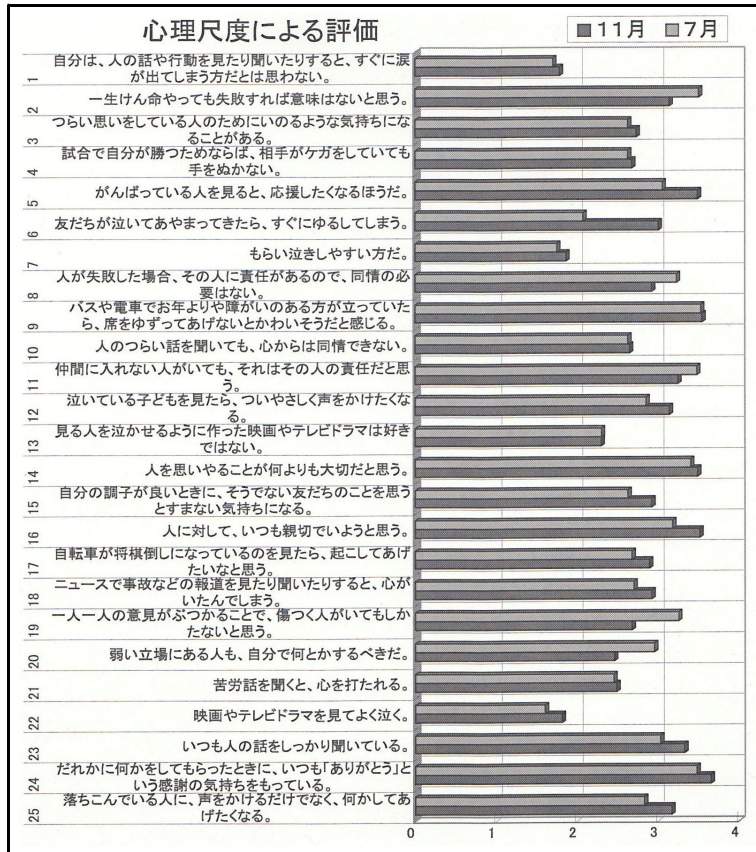


【資料9 授業後の自己評価 (11月)】



授業後に、授業への取組について3段階で自己評価をさせたところ、前頁の資料8、資料9のような結果になった。結果を分析すると、全体的に、「◎」「○」を合わせた授業への満足度は伸びていると言える。「話し合いによる考えの確認や修正」「自己の振り返り」「実践意欲」は、80%を超える結果が出ている。授業に話し合いを位置付け、話し合いによるコミュニケーションの場や機会を増やしたことが、自己の生き方を見つめようとしている姿に表れていると考える。

(イ) 心理尺度による評価



【資料10 心理尺度による評価 (7月と11月の比較)】

道徳的实践力が高まったかどうかを、授業後に、心理尺度を用いた質問紙を用い、4段階で自己評価をさせた。様々な場面において、「思いやり・親切」がどう表れてくるかをみるために行った。(質問項目については、京都大学 内田由紀子・北山忍氏の『思いやり尺度の作成と妥当性の検討』を参考にした。)

資料10の結果を分析すると、全体的に、7月に比べ11月の平均値が伸びていることから、「思いやり・親切」という道徳的価値の内面的自覚が少しずつ深まってきていると考える。発達段階において、児童一人一人の考え方や行為も様々である。道徳の時間の指導と各教科等や日常生活とを関連させた指導の継続により、道徳的行為に移そうとすることを体験的に身に付けさせていくことが必要だと考える。

また、今回用いた質問紙によるデータを因子分析してみた。因子分析とは、複雑な統計資料を少数の要因に分解し、その要因間の関係や変動に着目して全体的特徴を理解しようとする統計上の技法である。

資料11は、因子分析をした後、数値が0.5以上のものに注目して整理したものであり、質問項目がどの因子と関係が深いかを示したものである。

	因子1 (傾向性)	因子2 (相手の立場)	因子3 (共感)	共通性
5 がんばっている人を見ると、応援したくなるほうだ。	0.729	0.096	0.338	0.656
9 バスや電車でお年よりや障がいのある方が立っていたら、席をゆずってあげないとかわいそうだと感じる。	0.683	-0.164	-0.023	0.493
12 泣いている子どもを見たら、ついやさしく声をかけたい。	0.794	0.045	0.109	0.645
15 自分の調子が良いときに、そうでない友だちのことを思うとすまない気持ちになる。	0.506	0.063	-0.283	0.340
17 自転車が倒壊しになっているのを見たら、起こしてあげたいと思う。	0.723	0.082	0.058	0.533
18 ニュースで事故などの報道を見たり聞いたりすると、心がいたんでしまう。	0.661	0.155	0.135	0.479
24 だれかに何かをしてもらったときに、いつも「ありがとう」という感謝の気持ちをもっている。	0.550	0.167	0.135	0.349
25 落ちこんでいる人に、声をかけるだけでなく、何かしてあげたい。	0.790	0.014	0.042	0.626
2 一生けん命やっても失敗すれば意味はないと思う。	0.026	0.803	0.146	0.667
8 人が失敗した場合、その人に責任があるので、同情の必要はない。	0.031	0.869	0.035	0.758
11 仲間に入れない人がいても、それはその人の責任だと思ふ。	0.004	0.823	0.091	0.686
19 一人一人の意見がぶつかることで、傷つく人がいてもしかたないと思う。	0.086	0.693	0.086	0.495
20 弱い立場にある人も、自分で何とかするべきだ。	0.172	0.530	-0.369	0.447
7 もらい泣きしやすい方だ。	-0.020	0.010	0.560	0.314
22 映画やテレビドラマを見てよく泣く。	0.128	0.014	0.581	0.355

【資料11 因子分析の結果】

因子1は「人のために何かしようとする傾向性」、因子2は「相手の立場」、因子3は「共感」とした。資料で、第1回検証授業より第2回検証授業の方が下がった項目は、因子2によるものと一致する。つまり、本学級の児童は、「相手の立場」についてもっと深く考えさせることを重点的に指導していくことが必要であると考察した。

## ウ 記述による評価

自己の生き方を見つめさせるために、展開後段に「自己を見つめる」→「小グループでの話し合いによる感想や質問、意見の交流」→「自己の生き方を見つめる」という流れを位置付け、自分の行為やその理由、そのときの気持ちがどのように変容するのかを検証した。

		第1回検証授業（親切）	第2回検証授業（思いやり）
児童	自己を見つめる	私が学校で一人していると、友だちが「こっちにおいでよ」と言っていっしょに休み時間を過ごしてくれました。やさしいなと思いました。うれしかったです。	バレーボールでいやな負け方をしたときに、母がだいじょうぶと言ってくれました。とてもうれしかったです。これからがんばろうと思いました。
	話し合い	↓	↓
A	自己の生き方を見つめる	いろんな友だちがいて、うれしい気持ちが伝わってきました。やさしい人がいると気も楽になりました。	人のことを思っ思いやりのあることをすることは大切だなと思いました。人にやさしくして、思いやりをもって行動したいと思いました。

【資料12 展開後段の児童の変容例】

資料12に示す児童のワークシートの記述を見ると、展開後段の自己を見つめる書く活動では、資料と同じような場面だけでなく、自分の生活をじっくり振り返って、その経験を書き出している。その記述には、行為だけでなく、そのときの心情にもふれている。また、小グループでの話し合いの後には、「思いやり」や「親切」についての自分なりの考えや実践意欲と思われる記述が見られる。授業後の感想を見ると、友だちとの考えの交流が再度自己を見つめることにつながった記述もあった。児童は道徳的価値やこれからの自分について自分の言葉でまとめており、話し合いを通して再度自己の生き方を見つめさせることは有効であったことが検証できた。

## VII 成果と課題

### 1 成果

- 体験や体験活動を生かす工夫を取り入れたことにより、児童が授業の様々な場面で自分を振り返ることができ、展開後段の自己の生き方を深く見つめることにつながった。
- 展開後段に、小グループでの話し合いを通して再度自己の生き方を見つめる流れを位置付けたことにより、児童は実践に向けての考え方や意欲を表すようになってきた。
- 観察や記述に加え、心理尺度による評価を用いたことにより、児童の変容について、より客観性のある評価をすることができた。

### 2 課題

- 道徳的実践力をさらに高めるために、児童一人一人が持っている道徳的価値やそれまでの体験等の実態を詳細に把握する方法を研究する必要がある。
- 児童の実態に応じて、実践につながる道徳教育のための、年間を通した指導計画の改訂が必要である。

### 《参考文献》

文部科学省	(2008.3)	「小学校学習指導要領」	東洋館出版
文部科学省	(2008.8)	「小学校学習指導要領解説 道徳編」	東洋館出版
瀬戸 真 編著	(1986.11)	「道徳的体験と行為」	教育開発研究所
横山 利弘 著	(2007.7)	「道徳教育とは何だろうか」	暁教育図書
辰野千壽 編	(2007.10)	「指導と評価」	日本教育評価研究会

